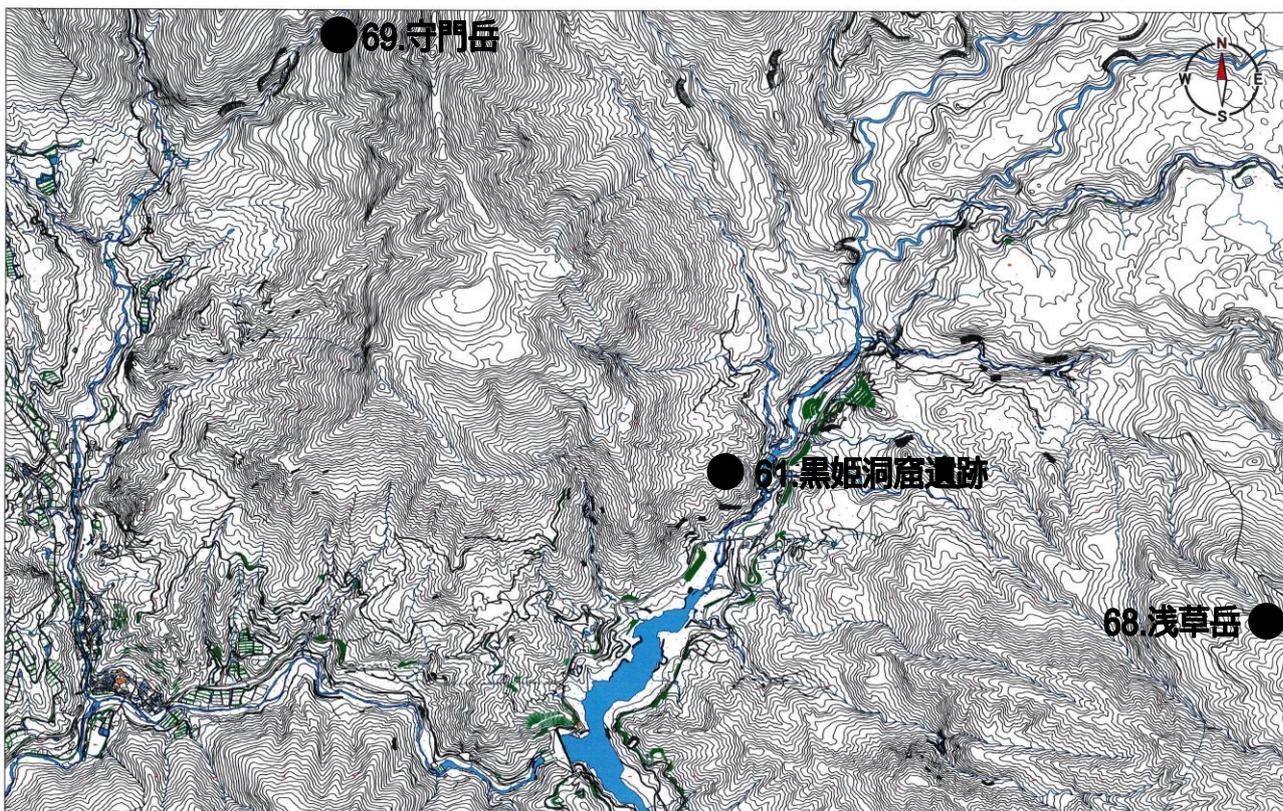
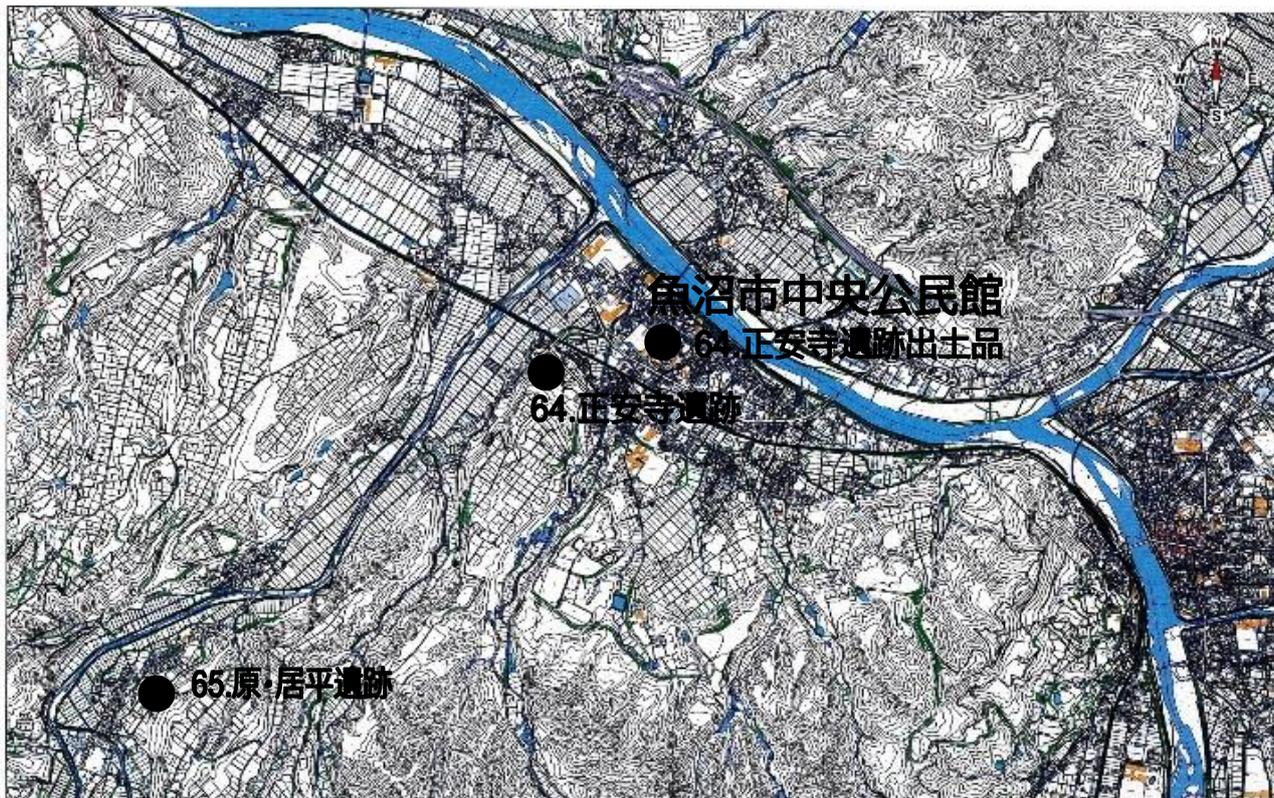
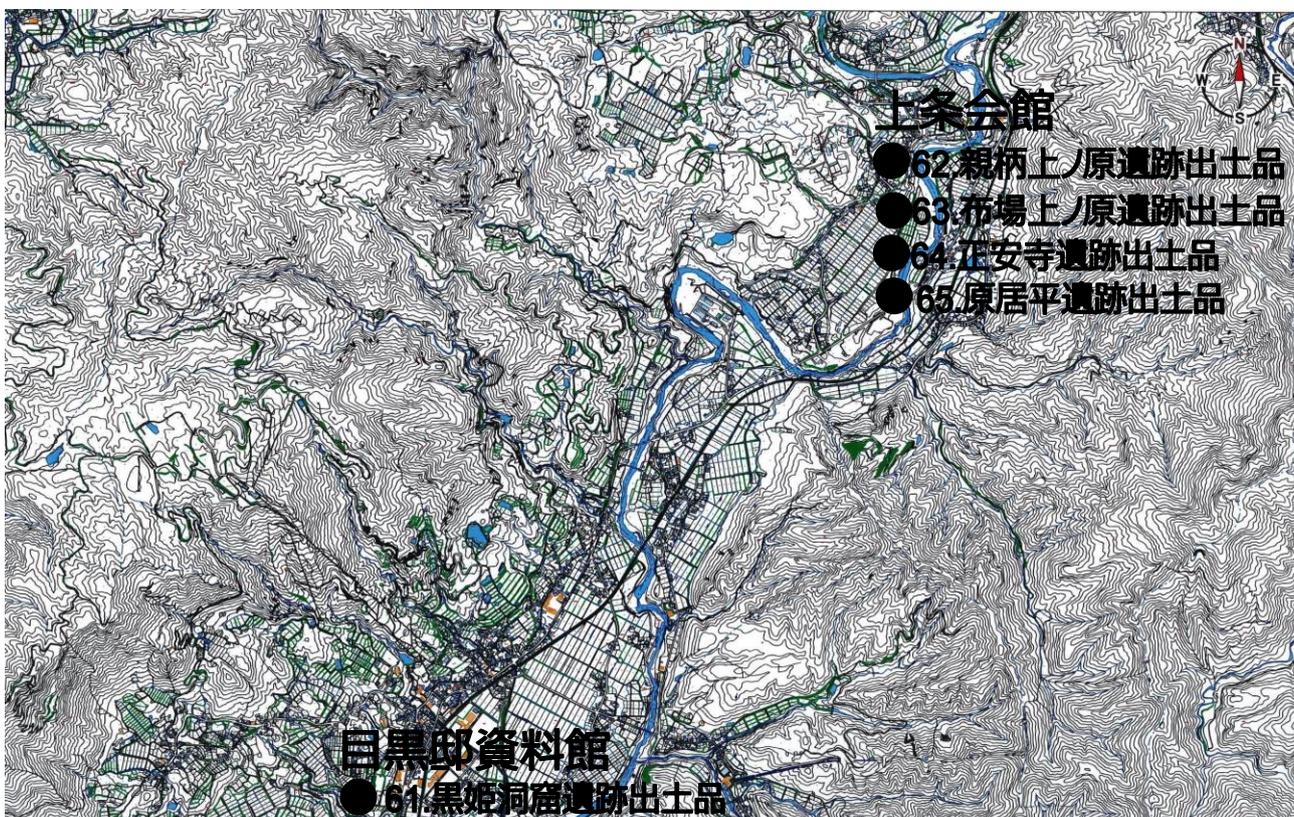
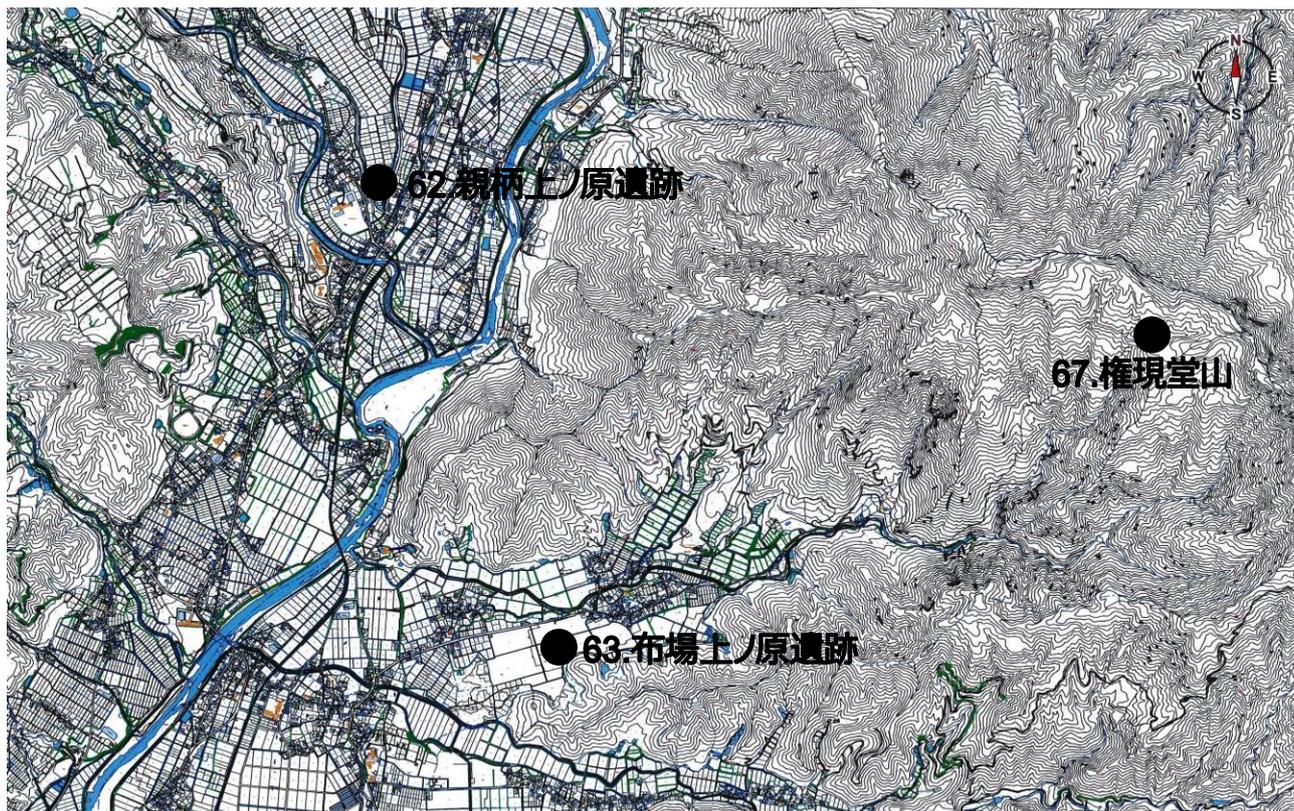


| | | | |
|--|--|-------|--------------------------|
| ① 申請者 | 新潟市・◎三条市・ 長岡市・十日町市・ 津南町・魚沼市 | ② タイプ | 地域型 / シリアル型 A B C D E |
| ③ タイトル | | | |
| 「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 | | | |
| ④ ストーリーの概要（200字程度） | | | |
| <p>日本一の大河・信濃川の流域は、8000年前に気候が変わり、世界有数の雪国となった。この雪国から5000年前に誕生した「火焰型土器」は大仰な4つの突起があり、縄文土器を代表するものである。火焰型土器の芸術性を発見した岡本太郎は、この土器を見て「なんだ、コレは！」と叫んだという。火焰型土器を作った人々のムラは信濃川流域を中心としてあり、その規模と密集度は日本有数である。このムラの跡に佇めば、5000年前と変わらぬ独特の景観を迫体験できる。また、山・川・海の幸とその加工・保存の技術、アンギン、火焰型土器の技を継承するようなモノづくりなど、信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。火焰型土器は日本文化の源流であり、浮世絵、歌舞伎と並ぶ日本文化そのものなのである。</p> | | | |
| ⑤ 担当者連絡先 | | | |
| 担当者氏名 | 三条市市民部 生涯学習課 文化財係 田村浩司 ※信濃川火焰街道連携協議会事務局 | | |
| 電 話 | (0256) 46-5205 | FAX | (0256) 64-8882 |
| E-mail | shougaigakushu@city.sanjo.niigata.jp | | |
| 住 所 | 〒955-0166 新潟県三条市上大浦 670 番地 埋蔵文化財調査室 | | |

市町村の位置図(魚沼市)





ストーリー

1 世界有数の雪国に生まれた火焰型土器

新潟県を南から北に流れる信濃川は、総延長 367km におよぶ日本一の大河である。その広大な流域を選んだ 1 万 3000 年以上前の人々は、世界に先駆けて土器づくりを始めた。縄文時代の幕開けである。特に上流域では、この時期の遺跡が全国的に見ても多く密集している。豊かな森と水に恵まれ、多種多様な動植物の宝庫となった信濃川流域には、1 万年もの間途切れることなく、自然と共生する縄文人の営みが見られた。

信濃川流域の縄文人たちは、8000 年前に大きな環境変化に見舞われた。日本海に対馬暖流が流れ込んだ影響で、雪が多く降るようになったのである。現在に続く世界有数の雪国は縄文時代に誕生した。豪雪は縄文人の生活を阻む反面、四季の瑞々しい美しさを生み、人々の感性や発想を豊かに育んだ。



国宝 笹山遺跡出土火焰型土器

そして、この雪国から縄文時代中期の 5000 年前に誕生したのが「火焰型土器」である。力強く燃える焰、また見る者によっては水の流れや波などをイメージさせる意匠、造形は圧倒的である。この造形の中で「突起」を持つということが縄文土器の特徴であり、中でも特に大仰な 4 つの突起を持つ火焰型土器は縄文土器を代表するものである。大仰な突起は、煮炊きする具の出し入れにはかえって邪魔になる。つまり現実の用途にかなった器ではなく、縄文人の世界観から紡ぎだされた観念を表現した器なのである。古今東西の焼物の中で突起を持つものは、火焰型土器に代表される日本の縄文土器だけであり、世界の中で際立った存在である。縄文文化は、日本文化の源流であり、その意味で火焰型土器は浮世絵や歌舞伎とともに、日本文化そのものなのである。

この火焰型土器の美を最初に発見したのは、芸術家・岡本太郎であった。「縄文土器の荒々しい、不協和な形態、紋様に心構えなしにふれると、誰でもドギツとする。なかんづく爛熟した中期の土器の凄まじさは言語を絶するのである。」の書き出しで始まる『縄文土器論』を記した太郎は、火焰型土器を見て「なんだ、コレは！」と叫んだという。そして、「火焰土器の 激しさ 優美さ」の言葉も残している。太郎を驚愕させた火焰型土器はほぼ新潟県域にしかなく、その本場が信濃川流域である。それはまさにこの地が「火焰土器のクニ」であり、山、川、海を通じた周辺地域との交流点であったからである。

2 火焰型土器のふるさと新潟

火焰型土器を作った人々のムラは、信濃川流域の河岸段丘上にあり、その多くは湧水の近くに作られた。中央の広場を囲むように 50 軒ほどの竪穴住居が配置された直径 100m ほどの「環状集落」である。



馬高遺跡復元竪穴住居

祭祀の場にもなった広場を中心に、馬蹄形に竪穴住居がめぐり、住居と広場の間には穴を掘って死者を葬った墓地が見つかっている。さらに木の実などを保存した貯蔵穴が並び、ムラのはずれには使われなくなった道具などを廃棄したゴミ捨て場、獣を追い込んで捕えた落とし穴もある。そのゾーニングは、整然として極めて計画的である。

縄文時代中期の遺跡が信濃川流域では 400 箇所以上も発見されており、この地のムラの規模と密集度が、日本有数であったことがわかる。また、これらの遺跡からは、

火焰型土器と同時期の土偶やヒスイの大珠など豊富な種類の祭祀の道具が多量に出土しているが、全国的にはあまり多く出土せず、この流域の縄文文化の特徴となっている。現在でも信濃川やその流域には山々や溪谷、奇岩、段丘、潟湖など、縄文時代からの景観が手つかずのまま残されている。縄文人が暮らしたムラの跡に佇めば、5000年前と変わらぬ風景を体験できる。



笹山じょうもん市で賑わう笹山遺跡

3 縄文時代から今に続く雪国文化

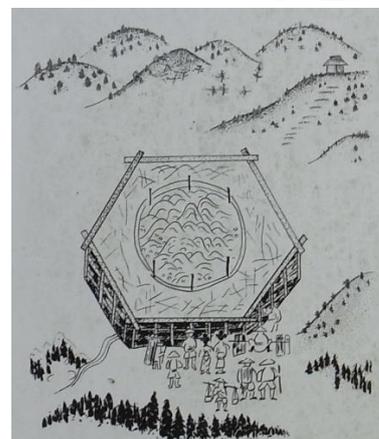
火焰型土器を生み出した縄文人の暮らしは、雪国の知恵の中に垣間見ることができる。雪国の民具がその一つ。江戸時代に鈴木牧之が『秋山記行』で紹介した「編衣」(アングイン)は、植物の繊維を用いて編んだ衣類として知られる。日本各地の縄文土器の底にアングインの編み跡が確認されるなどしているものの、生活の中で近年まで使われ続けていたのは、秋山郷をはじめとする信濃川流域だけである。自然と共生し、雪国の自然資源を巧みに利用した知恵と技術が、この地では現在まで続いている。雪国の文化を何世代にもわたり後世に伝えているこの地域の人々は、まさに今も縄文文化の知恵の中で暮らしているのである。



「編衣」(アングイン)

また、信濃川とその支流は、縄文時代から現在にいたるまで、豊かな漁場となっている。ひろがる広葉樹林からの養分が信濃川に入り、魚類を育てているためである。信濃川水系で生まれた鮭は外洋を回遊し、ふるさとの川へ産卵に戻る。それは縄文時代から今も変わらない。本格的に雪が降り始める前に信濃川を遡上する鮭は、縄文人にとっても、重要な食料資源のひとつであった。火焰型土器

には鮭を煮炊きしたと思われる焦げ跡が残っている。信濃川河口に近い新潟市場遺跡出土品も、古代に鮭漁が盛んだったことを物語っており、古代以降、鮭は越後の国の税目に挙げられていた。信濃川流域の各地域には川漁に関わる民具が伝えられている。自然資源を巧みに利用して暮らしてきた縄文人は、矢じりなど狩りの道具をつくる時などに、原油の副産物である天然アスファルトを接着剤として用いる知恵も持っていた。原油は日本海側に多く産出され、煮坪など信濃川沿いの丘陵で湧出している。



煮坪(新津石油遺産)



火焰型土器のモニュメント(長岡市大手通)

信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。縄文の昔から人々を養ってきた山・川・海の幸、加工や保存の知恵。地方色豊かな郷土料理、酒や味噌・醤油など発酵食品の製造技術。あるいは、豪雪環境が生み出したアングインや火焰型土器の技を継承するような、モノづくり、習俗など。

そして雪国を象徴する火焰型土器は、モニュメントとしても信濃川流域に多数あり、現代の暮らしの中に生きている。

ストーリーの構成文化財一覧表

| 番号 | 文化財の名称 (※1) | 指定等の状況 (※2) | ストーリーの中の位置づけ (※3) | 文化財の所在地 (※4) |
|----|---|----------------|--|--------------|
| 1 | しなのがわ 信濃川 | 未指定 | 総延長 367 kmの日本一長い川である。3万年前からこの流域で人が暮らし始めた。河川舟運と漁業によって流域の人の暮らしをつなぎ支えたが、ひとたび氾濫すると甚大な被害をもたらした。 | 新潟市～ 津南町 |
| 2 | しなのがわじょうりゅういきじょうもん 信濃川上流域縄文 じだいそうそうきせいせきぐん 時代草創期遺跡群 | 未指定 | 世界最古級の土器を作り始めたころの遺跡。信濃川上流域には日本有数の密集度で縄文時代の遺跡が点在している。 | 十日町市・ 津南町 |
| 3 | しなのがわじょうりゅういきじょうもん 信濃川上流域縄文 じだいそうそうきせいせきぐん 時代草創期遺跡群出土品 | 未指定 | 世界最古級の土器とその作り手が作り出した石器群 | 十日町市・ 津南町 |
| 4 | くぼでらみなみいせきしゅつどひん 久保寺南遺跡出土品 | 県有形 (考古資料) | 世界最古級の土器の作り手の登場。土器は化学変化を利用した画期的な発明であり、その後の生活様式に大きな変化をもたらした。 | 十日町市 |
| 5 | うのきいせき 卯ノ木遺跡 | 未指定 | 最古の縄文土器に続く縄文時代早期の遺跡。草創期遺跡群の範囲内にあり、押型文と呼ばれる特徴的な文様の土器が出土。自然と共生した暮らしが継続していることを示し、縄文人たちがみた信濃川を望む風景を今も見るができる。 | 津南町 |
| 6 | わりのいせき 割野遺跡 | 未指定 | 最古の縄文土器に続く縄文時代早期の遺跡。押型文と呼ばれる特徴的な文様の土器が出土し、さらに火焰型土器も出土している。 | 津南町 |
| 7 | どうじりいせき 堂尻遺跡 | 未指定 | 世界最古級の土器が出土した遺跡。また、王冠型土器も出土している。 | 津南町 |
| 8 | ききはらいせき 笹原遺跡 | 未指定 | 信濃川右岸の河岸段丘上に位置する自然と共生した最古の縄文土器に続く土器の作り手たちの遺跡。明治時代から知られている遺跡で、縄文人たちがみた信濃川を望む風景を今も見るができる。 | 津南町 |
| 9 | かみほら いせき 上原E遺跡 | 未指定 | 河岸段丘上に位置し、世界最古級の土器が出土した遺跡。土器が作られる前の黒曜石製石器群も出土し、信濃川を介した南北の交流を示す。縄文人たちがみた信濃川を望む風景を今も見るができる。 | 津南町 |
| 10 | どうぬきはらいせきぐん 胴拔原遺跡群 | 未指定 | 縄文時代草創期の遺跡で、最古の土器が出土する遺跡の1つ。日本でも類をみない大形の石器も出土している。縄文人たちがみた風景を今も見るができる。 | 津南町 |
| 11 | きさやまいせきしゅつどひん 笹山遺跡出土品 | 国宝 (考古資料) | 大規模な集落跡から出土した多数の火焰型・王冠型土器、石器類、土偶などがある。火焰型土器の文化の特色を | 十日町市 |

| | | | | |
|----|--|---------------|---|------|
| | | | よく示している。信濃川上流域を代表する資料である。 | |
| 12 | はばがみいせきしゅつどひん 幅上遺跡出土品 | 市有形 (考古資料) | 大規模な集落跡から出土した火焰型・王冠型土器をはじめ多数の土器、石器類、土偶などがある。笹山遺跡と並ぶ、信濃川上流域を代表する資料である。 | 十日町市 |
| 13 | うまたかいせきしゅつどひん 馬高遺跡出土品 | 国重文 (考古資料) | 命名の由来となった「火焰土器」第一号のほか、火焰型土器や王冠型土器などの土器群、多様な石器類、信仰に関わる土偶や石棒などがある。火焰型土器の文化の特色をよく示している。 | 長岡市 |
| 14 | いわのはらいせきしゅつどひん 岩野原遺跡出土品 | 未指定 | 大規模な集落跡から出土した多数の火焰型・王冠型土器、石器類、土偶などがある。馬高遺跡と並ぶ、信濃川中流域を代表する資料である。 | 長岡市 |
| 15 | とくちらいせきしゅつどひん 栃倉遺跡出土品 | 市指定(考古資料)・未指定 | 火焰型土器のほか、火焰型土器に後続してつくられた柵倉式土器や大形の土偶などがある。馬高遺跡と並ぶ、信濃川中流域を代表する資料である。 | 長岡市 |
| 16 | とくしょうじいせきしゅつどひん 徳昌寺遺跡等出土品 | 市有形 (考古資料) | 与板地域の遺跡から出土した火焰型土器・王冠型土器等で、信濃川中流域の特色をよく示している。 | 長岡市 |
| 17 | もん さわいせきしゅつどひん 門の沢遺跡出土品 | 市有形 (考古資料) | 三島地域の遺跡から出土した火焰型土器。 | 長岡市 |
| 18 | どうだいらいせきしゅつどひん 堂平遺跡出土品 | 国重文 (考古資料) | 火焰型土器・王冠型土器がほぼ完全な状態で残って出土し、当時の造形技術を今に伝える。信濃川上流域を代表する資料である。 | 津南町 |
| 19 | どうじつていせきしゅつどひん 道尻手遺跡出土品 | 町有形 (考古資料) | 火焰型土器をはじめ、多様な縄文土器や県内有数の土偶の出土量を誇り信濃川上流域を代表する資料である。 | 津南町 |
| 20 | おきの ほらいせきしゅつどひん 沖ノ原遺跡出土品 | 県有形 (考古資料) | 火焰型土器をはじめ、石器、土偶、クッキー状炭化物など縄文人の食生活、精神文化など縄文文化を伝える貴重な資料である。 | 津南町 |
| 21 | よしののむいせきしゅつどひん 吉野屋遺跡出土品 | 未指定 | 信濃川中・下流域の火焰型土器文化の大集落で、火焰型土器や王冠型土器とともに県内最多級の数を誇るかわいらしい顔をした縄文時代中期の土偶などの出土品がある。 | 三条市 |
| 22 | ながのいせきしゅつどひん 長野遺跡出土品 | 未指定 | 信濃川中・下流域の火焰型土器文化の大集落で、火焰型土器や王冠型土器とともに福島県会津の影響を受けた土器などの出土品がある。 | 三条市 |
| 23 | おおさわいせきしゅつどひん どう 大沢遺跡出土品・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定 | 信濃川下流の角田山麓に広がる縄文時代の集落跡。中期前葉に特に遺物量が多く、火焰型土器も出土している。ゼンマイ・ヤマノイモ・ソバなどの花粉や胞子が検出され、当時の人々が様々な植物を食料資源として利用していたことがうかがえる。 | 新潟市 |
| 24 | あきはいせきしゅつどひん どう 秋葉遺跡出土品・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定 | 信濃川下流の右岸側、新津丘陵北端の台地に立地する縄文時代中期～後期の集落跡。王冠型土器を含む縄文時代 | 新潟市 |

| | | | | |
|----|-------------------------------|-----------------------|---|------|
| | | | 中期後半を中心とする多数の土器などが発見されている。 | |
| 25 | うまたか きんじゅういなばいせき 馬高・三十稲場遺跡 | 国史跡 | 縄文時代中・後期の大規模な集落跡。中期の馬高遺跡は、多数の竪穴住居が環状に巡る、信濃川中流域の典型的な縄文集落である。火焰型土器がつけられた当時の竪穴住居が復元されており、縄文時代の佇まいを体感できる。 | 長岡市 |
| 26 | とちくらいせき 栃倉遺跡 | 市史跡 | 信濃川中流域にある縄文時代中期の大規模な集落跡。多数の竪穴住居が環状に巡り、平面卵形の特徴的な住居形態がみられる。 | 長岡市 |
| 27 | さきやまいせき 笹山遺跡 | 市史跡 | 縄文時代中・後期の大規模な集落跡。多数の竪穴住居が馬蹄形に巡る、信濃川上流域の典型的な縄文集落である。火焰型土器がつけられた当時の竪穴住居が復元されており、縄文時代の佇まいを体感できる。 | 十日町市 |
| 28 | おきの ほらいせき 沖ノ原遺跡 | 国史跡 | 火焰型土器を生み出した信濃川上流域の縄文時代を代表的する環状集落跡の遺跡である。 | 津南町 |
| 29 | どうだいらいせき 堂平遺跡 | 未指定 | 信濃川上流域の縄文時代中・後期の大規模な集落跡。火焰型土器とともに多数の竪穴住居や環状列石という縄文人の精神文化を表すモニュメントをもつ縄文集落である。 | 津南町 |
| 30 | どうじつていせき 道尻手遺跡 | 未指定 | 縄文時代中・後期の大規模な集落跡。火焰型土器が出土し、多数の竪穴住居が円形に巡る、信濃川上流域の典型的な縄文集落である。 | 津南町 |
| 31 | うえのいせき どうしゅつどひん 上野遺跡・同出土品 | 未指定・ 町有形 (考古資料) | 竪穴住居と大形の中空土偶が出土した縄文時代前期の遺跡。出土した土偶は、中が空洞でお腹が膨らみ妊婦だが、お腹が割られているのが特徴で縄文人の精神文化を見ることができる。 | 津南町 |
| 32 | うえの いせき 上野スサキ遺跡 | 未指定 | 縄文時代中期・後期の集落跡の遺跡。竪穴住居や墓、貯蔵穴がみつかり、当時の保存技術などを垣間見ることができる。 | 津南町 |
| 33 | はったんだいせき 八反田遺跡 | 未指定 | 信濃川左岸に位置する縄文時代後期・晩期の集落遺跡。注口土器と呼ばれる土瓶のような土器が出土し、その底部にはアンギン編み圧痕がみとれる。また、クリも出土している。 | 津南町 |
| 34 | みなんぼらいせき 南原遺跡 | 未指定 | 信濃川左岸に位置する縄文時代前期～後期の集落遺跡で、土偶が出土し、縄文人の精神文化を垣間見ることができる。明治時代から知られており、現在も地中に残されており、火焰型土器のムラが眠っている可能性がある。 | 津南町 |
| 35 | そりぐちいせき 反里口遺跡 | 未指定 | 火焰型土器が出土している縄文時代中期の遺跡。古くからその存在が知られているが、そのほとんどが地中にまだ集落が眠っている。信濃川の支流中津川のほとりに位置し、縄文人たちがみた風景が今もみることができる。 | 津南町 |

| | | | | |
|----|--|---------------|---|--------------|
| 36 | しょうめんがはら いせき 正面ヶ原A遺跡 | 未指定 | 縄文時代後期・晩期の集落遺跡。竪穴住居のほか、アスファルトが付着した石鏃や術的な道具、トチノミの水さらし場がみつきり、当時の木の実利用を見ることができる遺跡。 | 津南町 |
| 37 | やぎはなだい ごういわかげいせき 八木鼻第1号岩陰遺跡・ だい ごういわかげいせき どうしゆつど 第2号岩陰遺跡 同出土 ひん 品 | 未指定 | 市指定名勝八木ヶ鼻にある浅い洞窟である岩陰。縄文時代草創期から弥生時代、平安時代に人が暮らした痕跡が残る。岩陰遺跡の壁面からは岩塩も採れるため、人も動物も集まってきたものと考えられる。 | 三条市・ 長岡市 |
| 38 | よしのやいせき 吉野屋遺跡 | 未指定 | 信濃川中・下流域の火焰型土器文化の遺跡。谷に面した丘陵上にある大集落。 | 三条市 |
| 39 | ながのいせき 長野遺跡 | 未指定 | 信濃川中・下流域の火焰型土器文化の遺跡。信濃川支流の五十嵐・守門・駒出の3河川の合流点に位置し、市指定名勝八木ヶ鼻の絶景や粟ヶ岳、守門岳などの山々に抱かれた景観を間近に見ることができる。 | 三条市 |
| 40 | かがんだんきゆうぐん 河岸段丘群 | 未指定 | およそ40万年以上かけて大地と川の働きにより形成された何段もの日本最大級の階段状の地形。この地形の特徴として湧水が点在する。このような地勢的環境を舞台に縄文文化が展開され集落や火焰型土器が作られた。 | 津南町 |
| 41 | たしろ ななつがま 田代の七ツ釜 | 国名勝・天然 記念物 | 信濃川とその支流が作り出した壮大な景観。縄文時代以来の原風景。川の右岸は縦の柱状節理、左岸は横の柱状節理という珍しい地形で、1kmの間に滝や淵が連続する。 | 十日町市・ 津南町 |
| 42 | きよつきよう 清津峡 | 国名勝・天然 記念物 | 信濃川とその支流が作り出した壮大な景観。縄文時代以来の原風景。切り立った岩壁が続く大渓谷で、溪谷トンネルから見える柱状節理の地形に圧倒される。 | 十日町市 |
| 43 | りゅうがくぼ 龍ヶ窪 | 町名勝 | 豪雪の恵みによる豊富な水量を誇る湧水地。縄文時代遺跡が近接し、縄文時代以来の原風景を今に残す。 | 津南町 |
| 44 | やぎがはな 八木ヶ鼻 | 市名勝 | 信濃川支流の五十嵐川にそそり立つ高さ180mの絶壁。ダイナミックな雪国の自然を体感できる。2万年前から人々のランドマークになっており、八木ヶ鼻自体にも縄文時代からの岩陰遺跡があり周辺に遺跡が多い。 | 三条市 |
| 45 | さかた 佐潟 | 未指定 | 信濃川下流域の沖積地の砂丘列間に形成された潟湖。周辺に分布する縄文時代の遺跡からは石鏃などの狩猟具が出土し、潟湖に集まる動物や大型の水鳥を狩りの対象としていたことがうかがえる。 | 新潟市 |
| 46 | とやのがた 鳥屋野潟 | 未指定 | 信濃川などが沖積地に運び込む大量の土砂によりその下流域に発達した砂丘列間に内水面が取り残されて成立した潟湖。その誕生は縄文時代に遡り、当時の景観をしのぶことができ | 新潟市 |

| | | | | |
|----|--|---------------------|---|---------|
| | | | る。 | |
| 47 | ふくしまがた 福島潟 | 未指定 | 信濃川下流域の沖積地の砂丘列間に形成された潟湖。近世から干拓が進んだが、なお 193ha の広さを誇る。国指定天然記念物オオヒシクイの越冬地として日本一の規模であり、オニバス自生地の北限でもある。 | 新潟市 |
| 48 | やひこやま かくだやま 弥彦山・角田山 | 未指定 | 越後平野の日本海側に位置する、標高 634m と 482m の山で、佐渡弥彦米山国定公園の一部。南側の山麓には、大沢遺跡をはじめとする多くの縄文遺跡が立地している。 | 長岡市・新潟市 |
| 49 | びじんばやし 美人林 | 未指定 | 信濃川上流域に残る、縄文の佇まいが感じられる美しいブナ林の景観。四季折々の表情が楽しめる。 | 十日町市 |
| 50 | あきやまごうおよびしゅうへんちいき 秋山郷及び周辺地域の さんそんせいさんようぐ 山村生産用具 | 国重要有形民俗 | 縄文時代以来の編み技術であるアンギン関連資料ほか自然素材を利用した生活用具。信濃川上流域の山村の暮らしを体感できる。 | 津南町 |
| 51 | あきやまごう 秋山郷 | 未指定 | 中津川流域の溪谷に山村が点在する。縄文時代の遺跡もほぼ同じ場所にムラが形成されており、雪国山村の文化や風習を現代まで受け継がれている。縄文人が見た美しい自然景観も見ることができる。 | 津南町 |
| 52 | くわばらけほぞんみんか 桑原家保存民家 | 町有形 (建造物) | 築およそ 200 年以上と言われる茅葺民家。土間に地炉があり全国的にも珍しく、縄文時代の竪穴住居を想像させる。雪国山村の特徴を示した建物である。 | 津南町 |
| 53 | まとばいせき どう しゅつどひん 的場遺跡・同 出土品 | 県史跡・ 県有形・ 市有形 | 信濃川河口付近に形成された砂丘上に立地する奈良～平安時代の官衙関連遺跡。管状土錘など、漁業関連の遺物が大量に出土した。出土した木簡に書かれた「杉人鮭」や「をの尔へ(魚の贄)」「狄食」の文字は、この地で鮭を捕獲・加工し、北方の蝦夷への「饗給」に利用したことを示す。 | 新潟市 |
| 54 | おうじんさい 王神祭 | 県無形民俗 (民俗芸能) | 信濃川沿いの金峰神社で、毎年 11 月 5 日に行われる年魚行事。信濃川で獲れた鮭を神主が直接手を触れず鉄箸と包丁で下し、鳥居の形に整えて神前に供える。古来より鮭が重要な資源であったことを物語る貴重な儀式である。 | 長岡市 |
| 55 | かわりようかんけいしりょう 川漁関係資料 | 未指定 (民俗資料) | 信濃川の豊かな流れは、魚貝類や水鳥をはじめとする多くの生命を育ててきた。川漁でとれる魚は、栄養源として、また商品として、人々の生活を支えてきた。 | 十日町市 |
| 56 | にいっせきゆいさん にそつぽ 新津石油遺産(煮坪など) | 市史跡 | 信濃川下流右岸側の新津丘陵にある石油関連遺産。周辺の縄文時代遺跡では、接着剤として活用したアスファルト塊を交易品としていたことから、古くから原油やアスファルトが自然に | 新潟市 |

| | | | | |
|----|---|--------------------|---|------------|
| | | | 湧出していたことがわかる。 | |
| 57 | おおさわやちいせき とう 大沢谷内遺跡・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定 | 信濃川と新津丘陵にはさまれた沖積微高地上に立地する縄文時代晩期の集落跡。多量のアスファルト付き遺物やアスファルト塊が出土しており、古くから石油資源を活用していたと推測される。 | 新潟市 |
| 58 | ふじしいせき とう しゅつどひん 藤橋遺跡・同 出土品 | 国史跡・未指定 (考古資料) | 縄文時代晩期の大規模な集落跡で、高床式の掘立柱建物が特徴的。出土品には藤橋式土器のほか、天然アスファルトの付着した石鏃が多数出土し、石油関連資源の利用がうかがわれる。 | 長岡市 |
| 59 | うねのはらいせき とう しゅつどひん 上野原遺跡・同 出土品 | 未指定・市有形 (考古資料) | 沖積地を見渡せる台地上にある縄文時代晩期の遺跡。大形の竪穴住居から縄文土器とともに呪術的な道具が大量に出土した。アスファルトが付着した矢じりが出土している。 | 三条市 |
| 60 | あかまついせき とう しゅつどひん 赤松遺跡・同 出土品 | 未指定 | 縄文後期・晩期の遺跡で、矢じりとその製作途中のかけらが多量に出土した。乳白色の玉髓製のものが多く石材産地に立地する矢じりの製作工房址と考えられる。アスファルトが付着した矢じりも出土している。 | 長岡市 三条市 |
| 61 | くろひめどうくついせき とうしゅつどひん 黒姫洞窟遺跡・同出土品 | 市指定 (史跡) 未指定 | 世界最古級の土器を作り始めたころの洞窟遺跡。縄文時代草創期から弥生時代の人々が暮らした痕跡が残る。そのほか県内最古のサケ科の骨が出土している。アスファルトが付着した縄文時代早期の矢じりが出土している | 魚沼市 |
| 62 | おやがらうえのはらいせき とう 親柄上ノ原遺跡・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定 | 信濃川支流魚野川流域（信濃川中流域）の縄文時代中期の集落跡。火焰型土器がほぼ完全な状態で残って出土している。 | 魚沼市 |
| 63 | ぬのばうえのはらいせき とう 布場上ノ原遺跡・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定 | 信濃川支流魚野川流域（信濃川中流域）の縄文時代中期～後期の大規模な集落跡。火焰型土器や火焰型土器文化に後続する柵倉式土器や大木系土器が出土している。 | 魚沼市 |
| 64 | しょうあんじいせき とう しゅつどひん 正安寺遺跡・同 出土品 | 未指定・市指定 考古資料 | 信濃川支流魚野川流域（信濃川中流域）の縄文時代中期～後期の大規模な集落跡。多数の円形住居跡や貯蔵穴が見つかっている。ほぼ完全な状態の火焰型土器・王冠型土器が出土している。 | 魚沼市 |
| 65 | はら いたらいせき とう 原・居平遺跡・同 しゅつどひん 出土品 | 未指定・市指定 考古資料 | 信濃川支流魚野川流域（信濃川中流域）の縄文時代中期～後期の集落跡。多数の竪穴住居跡が環状に巡る縄文集落である。火焰型土器が完全な状態で残って出土している。 | 魚沼市 |
| 66 | うおのがわ 魚野川 | 未指定 | 三国山脈を源とする全長 66.7km 信濃川流域の代表的な支流の1つである。川的作用により形成された段丘面に多くの縄文時代の遺跡（集落）が形成され、鮭漁をおこなった川である。 | 魚沼市 |

| | | | | |
|----|--|-----|---|-------------------|
| 67 | ごんげんどうやま かみ しもごんげん 権現堂山 (上・下権現 堂山) | 未指定 | 古生層・火成岩からなる標高 997m と 896m の山で、南西の山裾に広がる段丘面には布場上ノ原遺跡をはじめとする多くの縄文遺跡が立地する。 | 魚沼市 |
| 68 | あさくさだけ 浅草岳 | 未指定 | 第 4 紀火山であり標高 1586m の山で、越後三山国定公園に指定されている。浅草岳は、縄文時代のランドスケープのメルクマークであり、南麓には黒姫洞窟遺跡をはじめ縄文遺跡や洞穴・岩陰が分布する | 魚沼市 |
| 69 | すもんだけ 守門岳 | 未指定 | 第 4 紀火山であり標高 1537m、2 百名山である。縄文時代のランドスケープのメルクマークであり、縄文時代の遺跡から出土する石器の素材となる石材の山でもあり、周辺の遺跡では、この山の石が石器として使われている。 | 魚沼市 長岡市 三条市 |

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)

構成文化財の写真一覧



1 信濃川



2 信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群
(壬遺跡・田沢遺跡)



2 信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群
(本ノ木遺跡)



3 信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群
出土品
(干溝遺跡出土品)



3 信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群
出土品
(卯ノ木南遺跡出土品) (小川忠博氏撮影)



3 信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群
出土品
(本ノ木遺跡出土品) (小川忠博氏撮影)



4 久保寺南遺跡出土品



5 卯ノ木遺跡



6 割野遺跡



7 堂尻遺跡



8 笹原遺跡



9 上原E遺跡



10 胴拔原遺跡群



11 笹山遺跡出土品



12 幅上遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



13 馬高遺跡出土品



14 岩野原遺跡出土品



15 栢倉遺跡出土品



16 徳昌寺遺跡等出土品



17 門の沢遺跡出土品



18 堂平遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



19 道尻手遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



20 沖ノ原遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



21 吉野屋遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



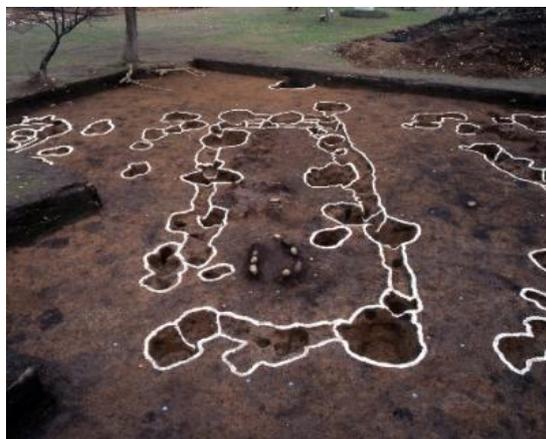
22 長野遺跡出土品
(小川忠博氏撮影)



23 大沢遺跡・同出土品



24 秋葉遺跡・同出土品



25 馬高・三十稻場遺跡



26 栃倉遺跡



27 笹山遺跡



28 沖ノ原遺跡



29 堂平遺跡



30 道尻手遺跡



31 上野遺跡・同出土品



32 上野スサキ遺跡



33 八反田遺跡



34 南原遺跡



35 反里口遺跡



36 正面ヶ原A遺跡



37 八木鼻第1号岩陰遺跡・
第2号岩陰遺跡 同出土品
(八木鼻第1号岩陰遺跡)



37 八木鼻第1号岩陰遺跡・
第2号岩陰遺跡 同出土品
(八木鼻第2号岩陰遺跡)



38 吉野屋遺跡



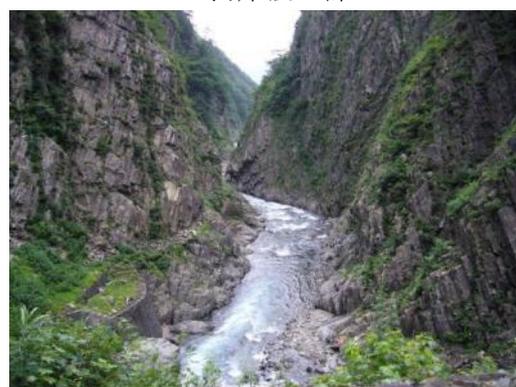
39 長野遺跡



40 河岸段丘群



41 田代の七ツ釜



42 清津峡



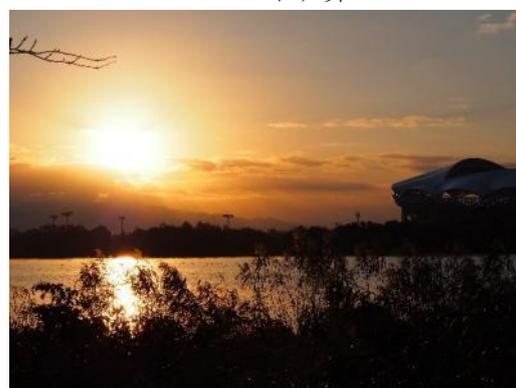
43 龍ヶ窪



44 八木ヶ鼻



45 佐潟



46 鳥屋野潟



47 福島潟



48 弥彦山・角田山



49 美人林



50 秋山郷及び周辺地域の山村生産用具



51 秋山郷



52 桑原家保存民家



53 的場遺跡・同 出土品



54 王神祭



55 川漁関係資料



56 新津石油遺産 (煮坪など)



57 大沢谷内遺跡・同出土品



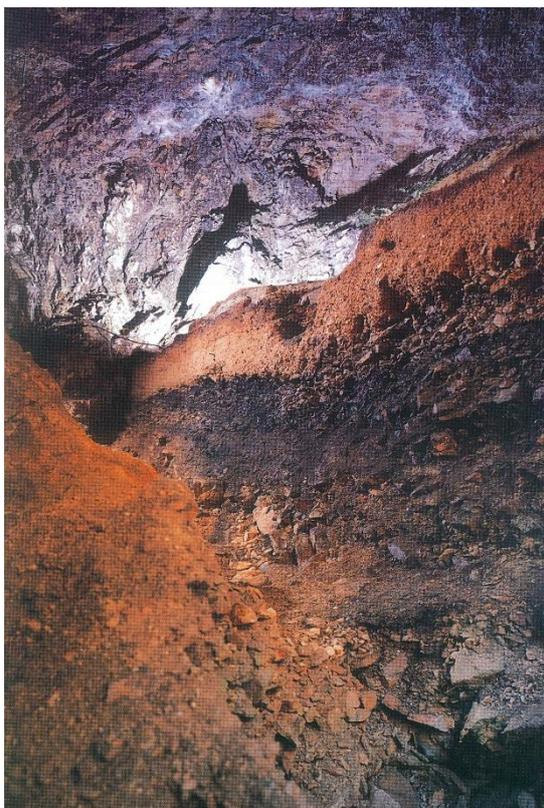
58 藤橋遺跡・同 出土品



59 上野原遺跡・同 出土品
(小川忠博氏撮影)



60 赤松遺跡・同 出土品



61 黒姫洞窟遺跡・同 出土品



63 布場上ノ原遺跡・同 出土品



62 親柄上ノ原遺跡・同 出土品



64 正安寺遺跡・同 出土品



65 原・居平遺跡・同 出土品



68 浅草岳



69 守門岳



66 魚野川



67 権現堂山 (上・下権現堂山)

日本遺産を通じた地域活性化計画

| 認定番号 | 日本遺産のタイトル |
|------|-----------------------------|
| 26 | 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 |

(1) 将来像 (ビジョン)

日本一の大河信濃川とその支流の魚野川流域は、世界有数の雪国の自然環境の中で育まれた縄文時代から続く歴史と文化がある。世界がそのデザインに驚嘆する火焰型土器に象徴される縄文文化は、一万年以上もの長きに渡り自然と共生して営まれ、雪国五千年の文化の基層となっている。雪国新潟の雄大な自然を背景に、山・川・海を通じた交流点となって火焰型土器を生み出した歴史、それらを基盤とする雪国文化は、この地域の宝であり、日本遺産ストーリーを形作っている。一方、この地域には火焰型土器のデザイン共有に象徴される圏域の一体性と山間部から河口部まで広大な流域の所々で異なる自然環境や景観の縄文時代から続く多様性が見られる。本地域の将来像は「縄文文化・雪国文化を基盤とした持続可能な活力ある地域」。以下実現すると考えられる地域の姿を示す。

1 「地域の一人一人が縄文文化と雪国文化の価値・魅力を十二分に理解する」

地域住民から縄文文化と雪国文化の価値・魅力を十二分に理解してもらうために、日本遺産を核とした文化財の保存活用事業に多様な人材に携わってもらい、日本遺産を自らの言葉で語り、暮らしの中に展開できる人材を育成する。地域住民や民間関係者に関わってもらい、子どもたちにストーリーの魅力とそれに関わる様々な知識と技術を伝える。それらを子どもたちが継承し発展させてつなげていく。このように地域住民一人一人に日本遺産が浸透し、郷土愛や地域への誇り、地域における活動に参加する機運が醸成され、人々の関わり合いによって地域コミュニティが活性化することを目指す。

2 「文化遺産の持続的保存・活用による地域活性化」

民間関係者から日本遺産の取組に関わり地域資源の重要性を意識してもらうために、行政と民間関係者を横断する官民協働体制を整備し、ストーリーの価値と魅力、それを守る意味を共有することで、日本遺産を通じた文化財の継承への理解と支援が得られるようになる。さらに来訪者に向けた日本遺産ストーリーの旅を地域の光として観光化することも可能となり、その収益の一部が構成文化財などの地域資源の持続的な維持管理や保護活動に安定的に充当されるようにする。このように官民の連携により、文化・観光・経済の好循環を目指す。

また縄文文化は、農耕牧畜をせず自然に負荷をかけない多様な資源の狩猟採集によって繁栄した持続可能な文化であり、SDGs の理念に通じる。来訪者は、信濃川流域にしかない自然や縄文文化、雪国文化を体感できる高付加価値な旅行商品や衣食住の体験によって、この地域の魅力に引きつけられ、SNS 等で発信することで、さらに来訪者が増えると考えられる。

3 「日本遺産の魅力が地域の持続的発展に寄与」

地域住民や民間関係者と連携して日本遺産を核とした魅力ある地域づくりによって、地域コミュニティが活性化し、日本遺産に関係した文化観光や商品開発により経済的な関係性が強化され、文化財に再投資されるという好循環により、この多様な個性を持つ地域が一体となって地域の活性化と持続的発展を目指す。

構成自治体の総合計画や文化財保存活用地域計画など行政計画の中で、日本遺産を含む文化財の保存・活用を位置づけており、例えば十日町市文化財保存活用地域計画では、日本遺産は、指定等文化財、未指定文化財、埋蔵文化財とともに十日町市の歴史文化遺産の中に位置づけられ、文化財保存活用施策の基盤となっている。また津南町総合振興計画では、日本遺産は、文化財の魅力を

地域と共有する取組に位置づけられ、質の高い体験活動をとおして住民が魅力を感じ観光客から選択してもらう事業展開を目指すとしている。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産体験メニュー・縄文フェス・縄文楽検定の参加者数

| 年度 | 実績 | | | | | |
|---------------------|--|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 9,854人 | 15,102人 | 23,694人 | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
| 数値 | 24,170人 | 24,660人 | 25,160人 | 25,670人 | 26,190人 | 26,720人 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・縄文文化・雪国文化をキーワードにした日本遺産のストーリーに触れる体験メニュー等の参加者数を指標とする。2024年度実績値から6年間で3,000人の増加を目標値とする。 ・構成自治体ごとに把握・集計 | | | | | |

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：地域拠点博物館等の入館者数

| 年度 | 実績 | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|----------|----------|----------|----------|----------|------|----------|-----|-----------|-----|-------------------------------------|-----|------------------|
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | | | | | | | | | |
| 数値 | 259,732人 | 268,676人 | 356,901人 | | | | | | | | | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | | | | | | | | |
| 数値 | 369,600人 | 384,300人 | 390,000人 | 395,800人 | 401,700人 | 407,700人 | | | | | | | | |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内外の来訪者が構成文化財に触れ、その魅力を体験できる地域拠点博物館等の入館者数を指標とする。2024年度実績値から6年間で51,000人の増加を目標値とする。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>自治体名</th> <th>地域拠点博物館等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新潟県</td> <td>新潟県立歴史博物館</td> </tr> <tr> <td>新潟市</td> <td>新潟市歴史博物館・文化財センター 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館</td> </tr> <tr> <td>三条市</td> <td>歴史民俗産業資料館・下田郷資料館</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 自治体名 | 地域拠点博物館等 | 新潟県 | 新潟県立歴史博物館 | 新潟市 | 新潟市歴史博物館・文化財センター 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 | 三条市 | 歴史民俗産業資料館・下田郷資料館 |
| 自治体名 | 地域拠点博物館等 | | | | | | | | | | | | | |
| 新潟県 | 新潟県立歴史博物館 | | | | | | | | | | | | | |
| 新潟市 | 新潟市歴史博物館・文化財センター 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 | | | | | | | | | | | | | |
| 三条市 | 歴史民俗産業資料館・下田郷資料館 | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|----------------|------|------------------------------------|
| | 長岡市 | 長岡市立科学博物館・馬高縄文館 三島郷土資料館 |
| | 魚沼市 | 守門民俗文化財館、魚沼市歴史資料館 |
| | 十日町市 | 十日町市博物館 |
| | 津南町 | 津南町農と縄文の体験実習館なじょもん 津南町埋蔵文化財センター |
| ・構成自治体ごとに把握・集計 | | |

| | | | | | | |
|----------------------------------|---|------|------|------|------|------|
| 目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること | | | | | | |
| 指標②－A：日本遺産をはじめ地域の文化に誇りを持つ地域住民の割合 | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | | | |
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 98% | 98% | 97% | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
| 数値 | 97% | 97% | 97% | 97% | 97% | 97% |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産をはじめ地域の文化に誇りを持つ住民の割合は、地域への愛着と事業の効果を測る指標となる。毎年、97%の高い割合を維持し続けることを目標値とする。 ・各構成自治体の地域拠点博物館等来館者、日本遺産各事業の参加者などのアンケート調査を行い把握・集計 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること | | | | | | |
| 指標③－A：地域拠点博物館等の入館料収入額 | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | | | |
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 28,712,760円 | 35,989,350円 | 31,945,120円 | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
| 数値 | 33,090,000円 | 33,750,000円 | 34,430,000円 | 35,120,000円 | 35,830,000円 | 36,550,000円 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域拠点博物館等の入館料は経済効果が生じると考えられるため指標とする。2024年実績値から6年間で4,600,000円の増加を目標値とする。 ・構成自治体ごとに把握・集計 | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------------------------|-------|---|-------|-------|-------|-------|
| 目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること | | | | | | |
| 指標④－A：日本遺産（縄文文化等）を活用した企画展・イベント等の事業数 | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | | | |
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 96 件 | 122 件 | 134 件 | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
| 数値 | 135 件 | 136 件 | 137 件 | 138 件 | 139 件 | 140 件 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | | <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内外の人がストーリーを体感できる日本遺産に関連する企画展・イベント等の事業を民間事業者とも連携して継続的に実施することを指標とする。2030 年度までに年間 140 件の事業を開催することを目標値とする。 ・構成自治体ごとに把握・集計 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------------------|-------------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること | | | | | | |
| 指標⑤－A：構成自治体の観光客入込数の観光消費額 | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | | | |
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 551,938 百万円 | 614,214 百万円 | 743,465 百万円 | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
| 数値 | 765,891 百万円 | 789,030 百万円 | 812,806 百万円 | 837,199 百万円 | 862,505 百万円 | 888,490 百万円 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | | <ul style="list-style-type: none"> ・構成自治体の観光客入込数の観光消費額は地域への経済的波及効果を反映すると考えられるため指標とする。2024 年度実績値から 6 年間で 1,450 億円の増加を目標値とする。 ・構成自治体ごとに把握・集計し、観光消費額は観光庁の旅行・観光消費動向調査の観光消費単価を参考に把握・集計。 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------------------|------------|------------|-------------|------|------|------|
| 目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること | | | | | | |
| 指標⑤－B：構成自治体の延べ宿泊者数の観光消費額 | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | | | |
| | 2022 | 2023 | 2024 | | | |
| 数値 | 85,102 百万円 | 89,608 百万円 | 108,742 百万円 | | | |
| 年度 | 目標 | | | | | |
| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |

| | | | | | | |
|---------------------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 数値 | 111,498 百万円 | 114,328 百万円 | 117,226 百万円 | 120,194 百万円 | 123,235 百万円 | 126,349 百万円 |
| 指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・構成自治体の延べ宿泊者数の観光消費額は地域への経済的波及効果を反映すると考えられるため指標とする。2024 年度実績値から6年間で176億円の増加を目標値とする。 ・構成自治体ごとに把握・集計し、観光消費額は観光庁の旅行・観光消費動向調査の観光消費単価を参考に把握・集計。 | | | | | |

(3) 地域活性化のための取組の概要

令和4年度審査時の指摘事項とそれに対する取組状況をまとめるとともに、現状の課題を整理し、今後6年間の日本遺産の活用方策について、日本遺産の7つの評価項目の観点で取組の概要をまとめた。

1 組織整備 ～連携強化と財源の多様化～

【指摘事項とこれまでの取組】

協議会と各行政内の部局間の連携不足と財源の多様化が課題とされた。これに対して、企画戦略会議・三つのWGは観光・学芸各分野からのメンバー構成による連携強化を図り、ふるさと納税、民間からの寄付などの外部資金の確保に努めた。

【現状の課題】

協議会関係者の役割のさらなる明確化、組織体制の一層の整備、財源の多様化が必要となっている。

【今後の取組】

協議会での行政、民間関係者等の役割分担を明確にし、各事業への民間関係者等の継続的な参画・協働を促進するために協働会議を展開し、ボトムアップの仕組み作りを行う。また、本地域の特性である圏域の一体性と各地域の多様性を踏まえつつ、シリアル型の強みを活かした事業を展開し、相乗効果をあげるためさらなる緊密な連携を図る。財源の多様化として、日本遺産関連開発商品などの売上の一部を寄付いただく日本遺産パートナー制を新設する。

2 戦略立案 ～PDCA サイクルによる事業立案～

【指摘事項とこれまでの取組】

戦略立案による取組、PDCA サイクルの確立が課題とされた。中長期戦略、DMO との協働による観光マーケティング戦略の作成を進め、会議で事業のPDCA サイクルを行った。

【現状の課題】

観光マーケティング戦略を踏まえた事業計画の修正が必要となっている。

【今後の取組】

観光マーケティング戦略に基づき、6市町が連携して計画修正を進める。住民、来訪者、民間関係者等の目線に立った事業展開を図るため、事業成果やアンケートを分析しその結果を関係者間で共有しPDCA サイクルによる事業評価を踏まえた事業計画を実施する。

3 人材育成 ～地域プレーヤーの育成推進～

【指摘事項とこれまでの取組】

地域プロデューサーの不在や地域プレーヤーの確保・育成が課題とされた。これに対して、地域プロデューサー2人を登用し、ガイドの育成や各事業への民間関係者からの参加、連携などを通じて地域プレーヤーの確保・育成を進めた。

【現状の課題】

6市町が連携したガイドなどの育成や関係者が日本遺産の活用に関わる共通の意義付け、動機付けが必要となっている。

【今後の取組】

観光・学芸部門の各地域プロデューサーは、地域の多様な人材と日本遺産の取組をつなぎ推進するコーディネーターの役割を担う。また来訪者に質の高いガイドを提供し理解度を向上させ、日本遺産ファンの獲得につなげるために、6市町で連携して日本遺産ガイド養成講座や各ガイド団体の交流合同研修会を開催し語り部としてブラッシュアップする。また、「おもてなしアドバイザー」を新設し、ガイド技術や多様な民間関係者のスキル向上への支援を行う。さらに、地域プレーヤーや民間関係者などが、進んで日本遺産による地域活性化に関わるように、ワークショップ、講座、講演会、勉強会などを実施する。特に思い入れの強い地域プレーヤーを発掘し中核人材として育成を進めるとともに、地域プレーヤーを組織化し地域活性化の土台を構築する。学校との連携や若い世代に向けた普及啓発事業を通じて郷土愛を育み、次世代の持続可能な地域づくりの担い手の育成を進める。

4 整備 ～日本遺産ストーリーを伝える整備の推進～

【指摘事項とこれまでの取組】

日本遺産センターや案内板等の設置が不十分であり、地域の回遊性向上が課題であった。6市町の拠点博物館等をビジターセンター化の取組を進め、十日町市博物館では、エントランスホールに日本遺産のプロジェクションマッピング、紹介動画を設営した。案内板等の整備も進めたほか、日本遺産カードの配布による回遊性向上を図った。

【現状の課題】

案内板、解説板等に二次元コードを貼付し協議会HPへのアクセス向上を図ったが、多言語化などのインバウンドに対応した整備が必要となっている。

【今後の取組】

日本遺産の価値や魅力を高める取組として構成文化財などの保存・活用のための調査研究を大学などの協力も得ながら継続的に進め、その成果を新たな整備などに活かし、来訪者の理解度の向上につなげる。また、火焰型土器に代表される構成文化財の多くは、6市町の拠点博物館等で展示公開している。令和7年3月に魚沼市歴史資料館が新たに開館し、さらに、令和7年10月18日に津南町埋蔵文化財センターがオープン予定である。展示ガイダンス施設やフィールドの整備・充実を図ることで、来訪者の理解促進や再訪につなげる。さらに、シリアル型の強みである連携ネットワークを活かし、日本遺産や地域情報を一元的にわかりやすく提供するビジターセンター化を継続し、来訪者の回遊を促進する機能の強化を図るとともに、案内板、解説板等の多言語化など、インバウンド対応の整備を進める。そのほか、地域の多様な資源を活かしたサブストーリーの抽出を行い、来訪者の周遊促進、滞在時間増加につなげる。

5 観光事業化 ～観光マーケティング戦略を活かした観光事業の推進～

【指摘事項とこれまでの取組】

観光のターゲット明確化とそれに対する戦略などが課題とされた。(一社)雪国観光圏(DMO)と協働し観光マーケティング戦略を作成し、旅行商品造成を進めた。

【現状の課題】

ガイドなどの地域プレーヤーと観光事業を連携させた取組が必要となっている。

【今後の取組】

「縄文」好きなニッチな客層や観光ターゲットに受け入れられやすいテーマになるように森と雪国の縄文文化の魅力やこの地域の多彩なコンテンツをマッチングし、観光マーケティング戦略を活かし、(一社)雪国観光圏(DMO)や観光協会等の民間関係者と協働で圏域全体かつ中長期での滞在促進を含む旅行商品造成などを推進する。育成したガイドなどの地域プレーヤーを活用し、「旅行先で出会ったあの人にまた会いたい」と感じてもらえるような、来訪者と顔の見える関係性を大切にした魅力的なコンテンツを提供する。PDCAサイクルにより観光マーケティングによる事業精度を上げ、さらなる魅力向上を図り持続可能な観光事業を推進する。ワークショップ、講演会などを開催し、縄文文化、雪国文化の知識を共有し、観光ステークホルダーなど多様な関係者の連携を生み出す。日本遺産ストーリーと地域の価値ある資源を再発見・再評価し、それらを磨き上げ、日本遺産を活かしたまちづくり意識の醸成を促し、民間事業者などの商品開発等の取組への支援を進め、地域経済の波及効果を高める。

6 普及啓発 ～日本遺産ストーリーの理解促進と郷土愛の醸成～

【指摘事項とこれまでの取組】

指摘事項はなかったが、博物館・資料館の展示会等における連携推進、小中学校等への出前授業などの取組を進め、日本遺産ストーリーにふれる機会の提供、理解促進に努めた。

【現状の課題】

6市町の博物館等のネットワークを活かし、これらの連携した展示会やイベントなどで来訪者の回遊性を向上させ、理解度を高める工夫が必要となっている。

【今後の取組】

一体性と多様性を併せ持つ本地域の特色を活かし、博物館等の展示会、イベント、フォーラムや講演会を通じた来訪者の回遊により、日本遺産ストーリーの理解を深化させる連携した取組を推し進める。民間関係者による日本遺産関連のイベント開催を促進するための支援を行い、また、他の日本遺産とも連携して日本遺産のさらなる認知度向上に努める。学校との連携をさらに推進し、次世代の地域の担い手である子どもたちの日本遺産ストーリーへの理解を深め、誇り、郷土愛や日本遺産をなぜ保存し活用するのかという保護意識の醸成を促す。高等教育機関とも連携し、日本遺産を活用した地域社会の課題解決に向けた取組を進める。また、出前授業などの成果を活かし、縄文文化を通じた各学校間の交流や発表会の開催に取り組む。

7 情報編集・発信 ～Web・社会資源等を利用した情報発信～

【指摘事項とこれまでの取組】

文化遺産の価値の情報発信が弱いことが課題とされた。広報 WG を新たに設置し、協議会公式 HP の更新に加え、文化庁派遣日本遺産プロデューサーの指導を受けて X、Instagram の開設を行った。また、外国人インフルエンサーの SNS による情報発信に取り組んだ。

【現状の課題】

協議会公式 HP、SNS で、観光マーケティング戦略を踏まえたターゲット層への訴求力ある投稿などの取組が必要となっている。

【今後の取組】

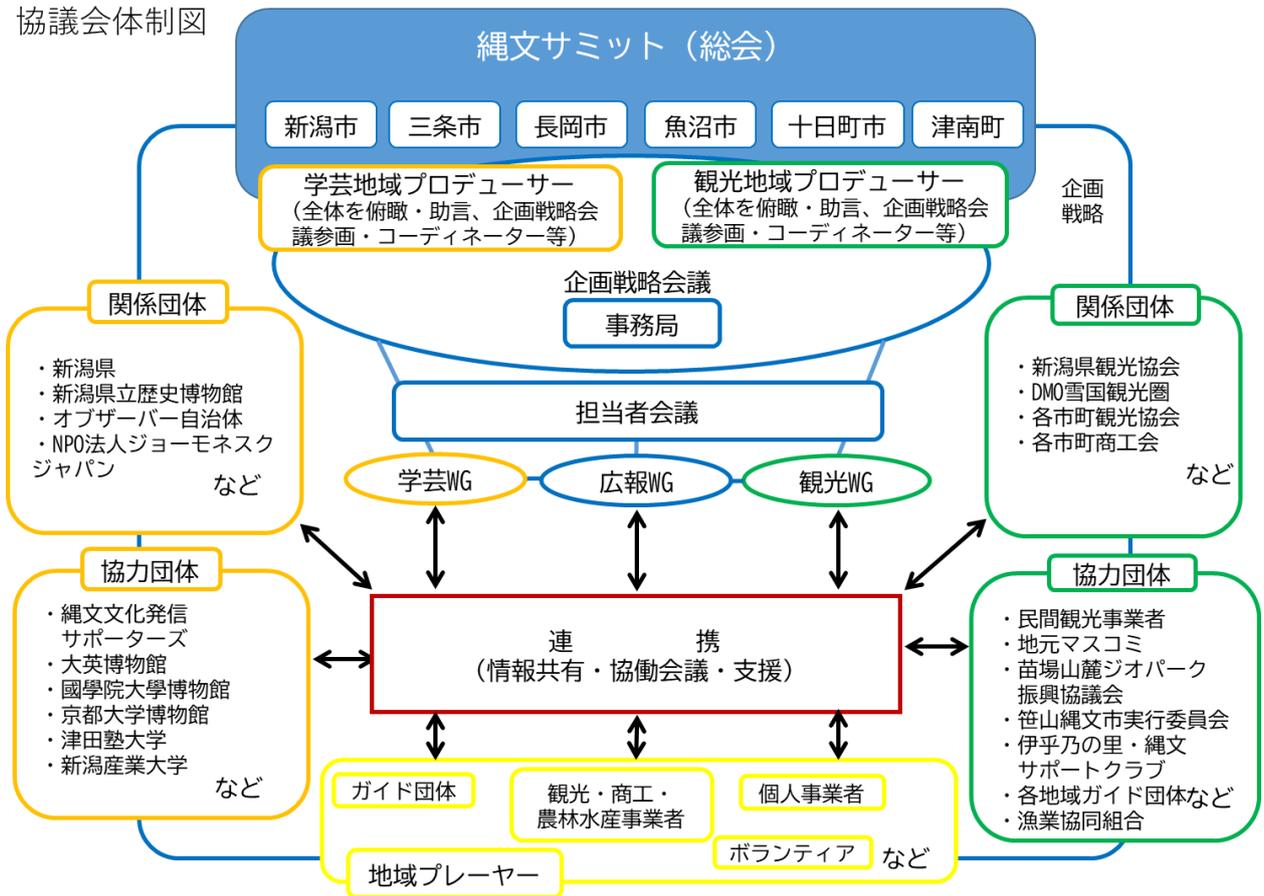
協議会公式 HP、日本遺産ポータルサイトなどの一次発信に例えば“雪国五千年の文化”や“命のアート”などの多くの方の関心を引く表現を用い、日本遺産の魅力をわかりやすい言葉で伝える。また地元マスコミを巻き込み、日本遺産関連イベント等を積極的に報道してもらい効果的な PR を行う。

新たな協議会公式 X、Instagram の投稿内容なども「縄文好き」なニッチな層やターゲット層への訴求力ある投稿を充実させ SNS フォロワー数の増加を図り、継続的な情報発信に努める。また、民間関係者や来訪者などの SNS による投稿を誘発する仕掛けづくりを進め、情報拡散、再訪や仲間へ連動行動を促す。イベント等への出展や日本遺産パンフレット設置など広報体制の強化により、多様な連携や社会資源等を活用した効率的な情報発信を通じて来訪者の増加や認知度向上を図る。

(4) 実施体制

- ・ **縄文サミット（総会）**：各首長が参加し、事業報告、会計報告、事業計画案及び予算案を決議する。日本遺産事業の意思統一を図る。
- ・ **地域プロデューサー**：観光部門に（一社）雪国観光圏(DMO)代表理事井口智裕氏、学芸部門に奈良大学名誉教授坂井秀弥氏を登用。縄文サミット・企画戦略会議に参画し、専門的な知識・スキルを活かして日本遺産の保存・活用について指導・助言をいただいている。各 WG、関係・協力団体・地域プレーヤー等との連携構築や地域の多様な人材と日本遺産の取組をつなぎ推進するコーディネーターの役割を担う。
- ・ **企画戦略会議**：協議会事業全体を統括、事業推進する。地域プロデューサー、構成団体の学芸、観光部門を統括する職員により構成。定期的に会議を開催し、事業計画策定から各種データを踏まえた実績の分析・検証を経て次へ展開する協議会内の PDCA サイクルを確立し、事業進行を担う。総会審議案件の協議と取りまとめを行う。
- ・ **担当者会議**：下記3部門のワーキンググループの担当が参加する会議体で、ワーキンググループを越えた共通の課題や情報の共有を行い、PDCA サイクルを実践する。
- ・ **ワーキンググループ**：観光・学芸・広報の3部門で、分野の垣根を越えて協議会の観光担当・文化財担当がそれぞれメンバーとなり、情報共有による体制強化を図る。関係・協力団体・地域プレーヤーとの協働・ボトムアップの窓口の役割も担う。
- ・ **関係・協力団体・地域プレーヤー**：日本遺産による地域活性化を目指すパートナーとして、地元マスコミなどの民間関係者を巻き込み、継続的な参画・協働を促進し、関係者間の緊密な連携や意見交換・情報共有を図る。

協議会体制図



[人材育成・確保の方針]

学校との連携による出前授業などを継続的に行い、未来ある子どもたちにストーリーの魅力を伝え、それを学んだ子どもたちが自ら考え発展させていくことで、新たな地域づくりに寄与することができる人材を育成する。また、ストーリーの基盤にある構成文化財について、大学等と協力して科学的・学問的な評価を明らかにし、その学術的成果をかみ砕き平易な言葉でわかりやすく子どもたちに説明し、地域の次世代の担い手を育成する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産の取組を継続的に行い、組織が自立・自走していくための財源確保について、以下の観点により取り組む。

①協議会予算の安定的確保

協議会は、構成自治体からの負担金（市 80 万円・町 40 万円／年）が予算の基盤財源である。これは 6 市町が確実に協働し日本遺産事業を継続的に行うための負担金であり、今後も継続してその確保に努める。

②構成自治体関連予算の確保

各構成自治体では、事業内容に合わせた国・県補助金を申請し予算財源を確保し、日本遺産に関連する事業実施に努めている。ほかにも自治体が単費で日本遺産に関連した事業を行うための予算を確保し、日本遺産事業全体の予算確保の底上げに努めている。

③民間関係者等との連携協定の活用

構成自治体において運輸・流通・大学など様々な主体と締結した「包括連携協定」により、幅広い分野での民間関係者等と取組を行い、事業費を抑制しながら活動を推し進める。具体的には多くの人が集まる流通店舗での縄文フェスなどを開催している。

④多様な財源による外部資金確保

ふるさと納税・寄付等の外部資金調達は、来訪者や民間関係者に日本遺産の魅力や価値、取組の大切さを展示会、ワークショップ、講演会などへの参加を通じて理解してもらうとともに、来訪者の目に付くところにチラシなどを配置することで、積極的なふるさと納税・寄付等を促す。民間関係者から収益の一部を寄付していただく日本遺産パートナー制を構築する。また、(一社)雪国観光圏(DMO)と協働して旅行商品造成、販売を推し進め、手数料収入などの多様な財源確保の取組を行う。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

ストーリーの根幹をなす火焰型土器やその遺跡は、私たちのルーツであるが古い時代の産物であるため、一般の人にはその価値や魅力がわかりづらい特徴がある。また、五千年前、火焰型土器が作られた時期にはすでに雪国であったこともあまり知られていない。しかし自然と共生し一万年もの長きに渡り続いた縄文文化は、多様な価値観を尊重する現代社会で持続可能な文化という観点から海外でも注目されている。

そのため縄文文化や雪国文化の内容をさらに明らかにするために調査研究を深めるとともに、ストーリーや構成文化財の価値や魅力などをわかりやすく伝えるイベント、講座、体験等を行い、文化財の保存と活用に積極的に取り組む人材を育成する。その取組には民間関係者も巻き込み、地域プレーヤーを増やし、来訪者にとっても魅力的な地域を作る。ストーリーの深化とさらに質の高い活用への好循環につなげていくため、以下の取組を進める。

①価値・魅力を高める調査研究

現在、構成自治体ですでに取り組んでいる史跡等の学術調査を中心に、構成文化財や関連文化財の保存整備と活用を目的とした調査研究を、大学等外部機関の協力も得ながら進める。その知見から導かれる構成文化財等の新たな価値・魅力を企画展や報告会、HP、ビジターセンターなどで地域内外に積極的に発信し民間関係者等にも情報共有を図り、さらに深化したストーリーをもとに新たな整備や活用方法の検討にも活かしていく。

②未来への保存継承

調査研究による新たな知見を通して深化したストーリーや構成文化財等の価値・魅力を、地域の人々や子どもたち、ファン層などに伝えるために、地域イベントでの縄文フェスなどの開催や講座、体験、小中学校での出前授業、高等教育機関でのワークショップを地域プレーヤーや民間関係者等とともに行うことにより、地元住民にはシビックプライドが醸成される。そのことによって住民自らが文化財の保存継承の取組へ参加する意識を高めることにつながる。かつて文化財は地域コミュニティの核でありその保存の取組は地域が行っており、文化財を活かした取組を再び行うことで地域コミュニティが活性化し、地域住民に誇りや愛着が醸成され、さらには文化財の保存の担い手が育成されることが想定される。これも少子高齢化により担い手が減少する中で、文化財の活用により次世代の担い手育成につながる好循環として捉えられる。

③価値・魅力を伝える活用

上記の調査研究にはじまる取組や活用は、自治体、地域住民、民間関係者等が協議会を中心とした情報共有と連携・協働を通じて進める。

民間関係者にとっても、調査研究の成果は活用するための重要なエビデンスとなりうるため、これを含めたストーリーと構成文化財の価値や魅力をワークショップや講演会等で分かりやすく伝え、それらを理解してもらい、地域イベント等の開催や商品開発、旅行商品造成等に活かしてもらおう。構成文化財の保存・活用のために収益の一部を寄付してもらおう日本遺産パートナー制を創設し、文化・観光・経済の好循環を目指す。またふるさと納税の寄付を促す取組を行う。

来訪者についても、ストーリーや構成文化財に触れてもらうとともに、縄文文化に起源をもつ雪国の衣食住を体験してもらい、その魅力を知ってもらう。一万年間自然と共生した縄文のくらしぶりが今も残る雪国のくらしは来訪者の心に残ると考えられ、縄文カレンダーのように春夏秋冬、四季折々の暮らしの工夫、自然の美しさを知ってもらえるようなイベント等の案内送付など再訪を促す取組や情報を発信する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

| | | | |
|------------|---|--|---|
| 事業名 | 日本遺産事業推進のための体制整備 | | |
| 概要 | 日本遺産事業を継続的に実施するために、6市町と民間関係者等との連携を強化し体制整備を進める。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 組織体制の整備 | ・協議会での行政、民間関係者等の役割分担を明確化し、WG で取り組む事業への民間関係者等の継続的な参画・協働を促進するとともに、官民参加の意見交換・情報共有の場として協働会議を展開し、ボトムアップの仕組み作りを行う。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ② | 関係・協力団体との連携 | ・DMO、観光協会、JATA等の旅行業団体・商工業団体や民間団体・事業者や地元マスコミなどを巻き込み事業協働の連携を進める。 | 協議会・ 各自治体・ (一社) 雪国観光圏(DMO) など民間関係者 |
| 年度 | 事業評価指標 | | 実績値・目標値 |
| 2022 | 日本遺産事業での関係・協力団体数 | | 52 |
| 2023 | | | 52 |
| 2024 | | | 64 |
| 2025 | 日本遺産事業での関係・協力団体数 | | 66 |
| 2026 | | | 68 |
| 2027 | | | 70 |
| 2028 | | | 72 |
| 2029 | | | 74 |
| 2030 | | | 76 |
| 事業費 | 2025年度：270千円 2026年度：270千円 2027年度：270千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 構成自治体負担金による協議会予算だけでなく、各自治体予算による事業も協議会事業と連動させ、基盤安定を図る。 | | |
| 事業費 | 2028年度：270千円 2029年度：270千円 2030年度：270千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、実績を踏まえて、関係・協力が期待できる団体の業種などを検討し、集中的に協力を依頼する。 | | |

(事業番号 1 - B)

| | | | |
|------------|---|--|----------|
| 事業名 | | 外部資金の確保と財源の多様化 | |
| 概要 | | 協議会の自立自走を目指し財源の多様化を進め外部資金の確保を行う。 | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | ふるさと納税・寄付 | ・日本遺産の取組などに対するふるさと納税や寄付などの外部資金の確保を図る。 | 各自治体・協議会 |
| ② | 日本遺産パートナー制 | ・日本遺産関連開発商品などの売上の一部を寄付していただく日本遺産パートナー制の仕組みを構築し、財源の多様化を進める。 | 協議会 |
| 年度 | 事業評価指標 | | 実績値・目標値 |
| 2022 | 日本遺産パートナーの数 | | — |
| 2023 | | | — |
| 2024 | | | — |
| 2025 | | | 1 |
| 2026 | | | 3 |
| 2027 | | | 5 |
| 2028 | | | 7 |
| 2029 | | | 9 |
| 2030 | | | 11 |
| 事業費 | 2025 年度：270 千円 2026 年度：270 千円 2027 年度：270 千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 日本遺産関連開発商品などの売り上げの一部を還元していただく仕組みを構築し、民間関係者への働きかけを行う。構成文化財の保全・整備といった日本遺産の取組財源として、ふるさと納税を外部資金として確保する。 | | |
| 事業費 | 2028 年度：270 千円 2029 年度：270 千円 2030 年度：270 千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記 2027 年までの方針を基本に、商品の開発に有用な情報提供はなにかなどの問題点を整理し、パートナーとなりうる事業者を増やす。ふるさと納税を外部資金として確保する。 | | |

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

| | | | |
|------------|--|---|----------|
| 事業名 | PDCA サイクルによるフォローアップ体制整備 | | |
| 概要 | 地域住民、民間関係者、来訪者などの目線に立った事業展開を進め、各取組の目標を達成するため、PDCA サイクルによる事業評価・改善策を踏まえた事業計画の立案を進める。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | PDCA サイクルによるフォローアップ | ・事業成果、目標に対する進捗状況や各種アンケート結果を分析し、課題の特定や対応策について各会議体で協議を行い、関係者間で情報共有を図り事業改善を行う。 | 協議会・各自治体 |
| ② | マーケティング戦略による事業計画 | ・観光マーケティング戦略を踏まえた事業計画を進めるとともに、戦略の精度をさらに高めていくために、PDCA サイクルによる見直し修正作業なども進める。 | 協議会・各自治体 |
| 年度 | 事業評価指標 | | 実績値・目標値 |
| 2022 | PDCA サイクルのフォローアップによる目標達成率 | | 76.2% |
| 2023 | | | 79.2% |
| 2024 | | | 100.0% |
| 2025 | PDCA サイクルのフォローアップによる目標達成率 | | 100.0% |
| 2026 | | | 100.0% |
| 2027 | | | 100.0% |
| 2028 | | | 100.0% |
| 2029 | | | 100.0% |
| 2030 | | | 100.0% |
| 事業費 | 2025 年度：0 千円 2026 年度：0 千円 2027 年度：0 千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 構成自治体と関係・協力団体とが7つの評価項目における各取組の事業目標と成果を共有し共通認識を持ちながら、共に協議会に参画し、定期的に事業の達成状況をチェックし、必要な修正を行えるような PDCA サイクルによるフォローアップ体制を確立する。 | | |
| 事業費 | 2028 年度：0 千円 2029 年度：0 千円 2030 年度：0 千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記 2027 年度までの方針を基本に、PDCA サイクルが機能しているか、目標設定は適切かなどを検証し、各事業の指標となるように適宜変更を行う。 | | |

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

| 事業名 | 人材育成推進事業 | | |
|------|---|---|------------------------|
| 概要 | 地域プロデューサーの活用やガイドなどの地域プレーヤー・民間関係者等の育成・確保を行う。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 地域プロデューサーの活用 | ・観光・学芸部門の各地域プロデューサーからは、その専門的な知識・スキルを活かして地域の多様な人材と日本遺産の取組をつなぎ推進するコーディネーターの役割を担ってもらい、日本遺産の取組に指導・助言をいただく。 | 協議会 |
| ② | 日本遺産ガイドの育成 | ・6市町で密接に連携し日本遺産ガイド養成講座や活動中のガイド団体の交流合同研修会を開催するとともに、インタプリテーションのできるガイド養成を推し進める。 ・「おもてなしアドバイザー」を新設し、ガイド技術や多様な民間関係者のスキルの向上への支援を行う。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ③ | 地域プレーヤーの確保・育成 | ・日本遺産の価値・魅力、保存や活用する意義などを学習するワークショップ、講座、講演会、勉強会などを開催する。 ・特に思い入れの強い地域プレーヤーを発掘し、中核人材として育成を進めるとともに、地域プレーヤーの組織化を進める。 ・地域プロデューサーからの指導・助言を受けられる仕組みを作る。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ④ | 次世代の担い手の育成 | ・学校との連携や若い世代に向けた普及啓発事業を通じて郷土愛を育み、次世代の持続可能な地域づくりの担い手を育成する。 | 協議会・ 各自治体 |
| 年度 | 事業評価指標① | | 実績値・目標値 |
| 2022 | 日本遺産ガイドが案内した観光客数 | | 5,998人 |
| 2023 | | | 9,430人 |
| 2024 | | | 9,371人 |
| 2025 | 日本遺産ガイドが案内した観光客数 | | 9,550人 |
| 2026 | | | 9,700人 |
| 2027 | | | 9,850人 |
| 2028 | | | 10,000人 |
| 2029 | | | 10,150人 |
| 2030 | | | 10,300人 |

| 事業費 | 2025年度：3,591千円 2026年度：3,591千円 2027年度：3,591千円 | |
|------------|---|---------|
| 継続に向けた事業設計 | 観光客に加え、地域住民に対しても広く日本遺産ストーリーの魅力を発信できるガイドを育成するとともに、活躍の場の提供も併せて進めていく。また、ガイド交流合同研修会を開催し、ガイドの質の向上に努める。 | |
| 事業費 | 2028年度：3,591千円 2029年度：3,591千円 2030年度：3,591千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、地域全体でのストーリーの繋がりや歴史・文化などを説明できるように研修を行い、他地域への来訪を促す。 | |
| 年度 | 事業評価指標② | 実績値・目標値 |
| 2022 | 地域プレイヤーの数（団体数） | 13 |
| 2023 | | 15 |
| 2024 | | 18 |
| 2025 | 地域プレイヤーの数（団体または個人数） | 24 |
| 2026 | | 30 |
| 2027 | | 36 |
| 2028 | | 42 |
| 2029 | | 48 |
| 2030 | | 54 |
| 事業費 | 2025年度：3,591千円 2026年度：3,591千円 2027年度：3,591千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | 各地域プレイヤー間の情報共有の場を創出し、優良事例の共有、水平展開を促進しながら、地域プレイヤーとして育成を図る | |
| 事業費 | 2028年度：3,591千円 2029年度：3,591千円 2030年度：3,591千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、新たな地域プレイヤーの発掘、育成や活動の場の提供に努める。 | |

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

| 事業名 | 日本遺産ストーリーを伝える仕組みの整備 | | |
|-----|---|---|----------|
| 概要 | 構成文化財の調査研究、博物館等のビクターセンター化・解説板・展示施設、日本遺産カード、サブストーリーなど日本遺産ストーリーを伝えるための整備を進める。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | ストーリーを体現する構成文化財等の価値・魅力を高める調査研究 | ・構成文化財である津南町沖ノ原遺跡確認調査(国史跡)、魚沼市黒姫洞窟遺跡確認調査(市史跡)を継続して実施し、構成文化財のさらなる魅力創出につなげ、調査成果を現地説明会、HP や YouTube など発信する。 | 各自治体 |
| ② | 博物館や観光施設等のビクターセンター化 | ・十日町市博物館を核としながらも各博物館や観光施設等に日本遺産ストーリーを解説するコーナーの設置を拡充し、他地域の構成文化財や観光情報を提供するビクターセンターを整備し周遊向上に取り組む。 | 協議会・各自治体 |
| ③ | サイン看板等の整備 | ・構成文化財や構成文化財展示施設、モニメントなどに環境に配慮したサイン看板等の整備をさらに進める。 ・ストーリーを伝える HP 情報に容易にアクセスできるようにした二次元コードの設置を拡充する。 ・インバウンド対応の多言語化に取り組む。 | 協議会・各自治体 |
| ④ | 文化財展示施設・フィールド等の整備 | ・津南町では埋蔵文化財センターの整備を進め令和7年10月にオープンを予定している。 ・十日町市では国宝出土地・笹山遺跡縄文広場整備基本計画を策定し、整備に向けた計画を進める。 ・津南町では国指定史跡沖ノ原遺跡の範囲確認調査・整理作業を進め、保存活用計画・整備基本計画策定に向けた準備を行う。 ・既存の展示施設・フィールド等もさらなる展示内容の更新・充実を図る。 | 各自治体 |
| ⑤ | 構成文化財の修理・修繕等 | ・出土品再整理事業など構成文化財の保全やその価値や魅力を高めるために修理・ | 各自治体 |

| | | | |
|------------|---|---|------------------------|
| | | 修繕などを行う。 | |
| ⑥ | 観光サテライト展示による日本遺産の紹介 | ・構成文化財の火焰型土器、日本遺産パネル等を集客力のある観光施設、公共施設・民間施設やイベントなどで展示する。 ・シリアル型の強みであるネットワーク機能を活かしたりレー展示も連携して行う。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ⑦ | ストーリーを支えるサブストーリーの抽出 | ・来訪者の周遊促進を図るため、地域の多様な資源や既存観光コンテンツを活かしたサブストーリーの抽出を行う。 | 各自治体・ 協議会 |
| ⑧ | 二次交通の整備 | ・タクシー、デマンドタクシー、レンタル自転車等を活用した移動手段を確保する。 ・ガイドが同乗する観光タクシーを民間関係者と連携して整備する。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| 年度 | 事業評価指標① | | 実績値・目標値 |
| 2022 | 整備状況に対する満足度 | | — |
| 2023 | | | — |
| 2024 | | | 93% |
| 2025 | 整備状況に対する満足度 | | 93% |
| 2026 | | | 93% |
| 2027 | | | 93% |
| 2028 | | | 94% |
| 2029 | | | 94% |
| 2030 | | | 94% |
| 事業費 | 2025年度：156,916千円 2026年度：14,356千円 2027年度：14,356千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 日本遺産ストーリーを広く伝えるための基盤整備事業であり、負担金及び各市町自主財源等（国庫補助金等の活用含む。）を活用しながら継続、安定した事業展開を行う。 | | |
| 事業費 | 2028年度：14,355千円 2029年度：14,356千円 2030年度：14,356千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、シリアル型の強みを活かし、6市町の民間関係者なども巻き込み、分業と協業により各整備事業を推し進める。 | | |

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

| 事業名 | 観光事業の推進 | | |
|-----|--|---|--|
| 概要 | 観光マーケティング戦略を活かして(一社)雪国観光圏(DMO)など民間関係者と協働で観光事業などに取り組み、PDCA サイクルによる事業精度を高め持続可能な観光事業化を推進する。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 旅行商品の造成など観光事業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光マーケティング戦略を活かして、(一社)雪国観光圏(DMO)など民間関係者と協働で旅行商品造成などの観光事業の取組を進める。 ・ガイドなどの地域プレーヤーを活用した魅力的なコンテンツを提供する。 ・PDCA サイクルにより事業の精度を高める。 ・造成した旅行商品の販売手数料などによって財源確保に努める。 | 協議会・ 各自治体・ (一社)雪国観光圏(DMO) など民間関係者 |
| ② | 観光ステークホルダーなどの日本遺産を活かしたまちづくり意識の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーと地域の価値ある資源を再発見・再評価し、それらを磨き上げ、日本遺産を活かしたまちづくり意識の醸成を促すワークショップ、講演会などを開催する。 | 協議会・ 各自治体・ (一社)雪国観光圏(DMO) など民間関係者 |
| ③ | 商品開発等への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産認定商品の仕組みを作り認定を行う。 ・日本遺産に関連する商品等の開発を推奨し、その活動への支援を進める。 ・日本遺産認定商品へのミュージアムショップでの売り場提供を行い、売り上げ向上に貢献する。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ④ | 雪国の文化や自然環境の優良体験コンテンツの展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・雪国五千年の文化を活かした縄文ツアー、スノーハイクやラフティングなどのアクティビティ観光の優良事例をリアル型日本遺産である特色を活かし水平展開を図る。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |
| ⑤ | 日本遺産カードの配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・構成文化財などの対象を撮影した来訪者に構成文化財等の展示施設のほか、観光施設や民間施設などで日本遺産カードの配布を行い、周遊エリアの拡充を進める。 | 協議会・ 各自治体・ 民間関係者 |

| | | | |
|------------|--|--------------------------------|----------------|
| ⑥ | 縄文フェスの開催 | ・集客力のある観光イベントなどに縄文フェスブースを出展する。 | 協議会・各自治体・民間関係者 |
| 年度 | 事業評価指標① | | 実績値・目標値 |
| 2022 | ミュージアムショップの売上 | | 12,971,274円 |
| 2023 | | | 14,725,345円 |
| 2024 | | | 17,297,183円 |
| 2025 | ミュージアムショップの売上 | | 17,646,000円 |
| 2026 | | | 17,998,000円 |
| 2027 | | | 18,357,000円 |
| 2028 | | | 18,724,000円 |
| 2029 | | | 19,098,000円 |
| 2030 | | | 19,479,000円 |
| 事業費 | 2025年度：48,950千円 2026年度：48,950千円 2027年度：48,950千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 協議会、各自治体、民間関係者等との連携による取組となるため、各自治体において必要な財源措置を行いながら事業を継続していく。なお、将来的には、民間関係者による旅行商品等の売上収入の協議会への還元など、財源確保に努める。 | | |
| 事業費 | 2028年度：48,950千円 2029年度：48,950千円 2030年度：48,950千円 | | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、観光マーケティング戦略の精度を高め、さらなる魅力的な旅行商品造成や商品開発を進める。 | | |

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

| 事業名 | 学校教育との連携と地域住民・来訪者への普及啓発 | | |
|-----|--|---|-------------------|
| 概要 | 日本遺産ストーリーを体験する機会を提供し、その価値や魅力について理解・関心を高め認知度を向上させ、誇りや愛着心の醸成を図る。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | 日本遺産ストーリー・縄文文化・雪国文化をテーマにした企画展やイベントを実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・6市町の連携やネットワークを活かした企画展、イベント（縄文シンポジウム等）、フォーラム、講演会などを行う。 ・6市町が分業と協業しリレー講座なども行い、日本遺産、縄文文化や雪国文化の魅力あふれる地域であることを普及啓発する。 | 協議会・各自治体 |
| ② | 日本遺産関連イベント開催への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・民間関係者による日本遺産関連イベント開催を促進するための支援に取り組む。 | 協議会・民間関係者 |
| ③ | 学校教育との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業、縄文カムバックサーモン事業などを通し児童・生徒向けに普及啓発を行う。 ・学習成果を活用した地域づくりにつなげるための子ども縄文サミットを開催する。 ・学習成果を活用した地域活性化につなげるための子ども日本遺産地域資源アイデアコンテストの開催やそのアイデアを活かした商品づくりなどに取り組む。 | 協議会・各自治体・学校・民間関係者 |
| ④ | 日本遺産「なんだ、コレは！」+縄文楽検定の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産や縄文文化などについて楽しく学び、理解を深めてもらうために初級・中級・上級の検定を実施する。 | 協議会・各自治体 |
| ⑤ | 優良事例の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・シリアル型日本遺産である特色を活かし、各地域の優良事例である JOMON の風コンサート、高校生向けフォトバスツアーやフォトコンテストの水平展開を図る。 ・優良事例の情報共有を図るため、好事例共有会を開催する。 | 協議会・各自治体・民間関係者 |
| ⑥ | 他の日本遺産地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の日本遺産地域と連携してスタンプラリーを実施する。 ・同じエリアに所在する他の日本遺産とも連携したイベントをエリア内外で開催し認知度向上に努める。 | 協議会・各自治体・他日本遺産団体 |

| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
|------------|---|---------|
| 2022 | 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化の認知度 | — |
| 2023 | | — |
| 2024 | | 26.8% |
| 2025 | 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化の認知度 | 30.0% |
| 2026 | | 35.0% |
| 2027 | | 40.0% |
| 2028 | | 45.0% |
| 2029 | | 50.0% |
| 2030 | | 55.0% |
| 事業費 | 2025年度：28,656千円 2026年度：28,656千円 2027年度：28,656千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | シリアル型日本遺産である特性を活かし、各地域の優良事例を全体で共有し、水平展開を図っていく。 | |
| 事業費 | 2028年度：28,656千円 2029年度：28,656千円 2030年度：28,656千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記2027年度までの方針を基本に、学習体験の改良などを行う。また、フォーラムや縄文楽検定などを通じてストーリーの周知を広め、雪国に暮らす地域の人々に縄文時代から現在まで続く文化を再認識してもらう。 | |

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

| 事業名 | Web・メディア・社会資源等を利用した情報発信 | | |
|-----|---|--|----------------|
| 概要 | シリアル型の特性を活かし、多様な主体との連携をさらに進め、効率的な情報伝達を推進する。 | | |
| | 取組名 | 取組内容 | 実施主体 |
| ① | Web やメディア等を活用した情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会公式 HP、日本遺産ポータルサイトなどへ、多くの方の関心を引く表現を用い、わかりやすい言葉で情報発信する。 ・協議会公式 X、Instagramの定期的な投稿を行う。また、ターゲット層への訴求力のある投稿を充実させる。 ・民間関係者、来訪者やインフルエンサーなどの SNS による体験情報や感動する写真の投稿を誘発する仕掛けづくりを進める。 ・関係・協力団体などとの情報発信の連携強化を行う。 ・マスコミを巻き込み積極的にPRを行う。 ・多方面への情報拡散を通して、必要としている層への確実な情報伝達を進める。 | 協議会・各自治体・民間関係者 |
| ② | 圏域内外の社会資源等を活用した情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域内外の集客力の高い関連施設、交通インフラ等においても、日本遺産パンフレットをはじめとしたPR媒体を設置して広報体制を強化する。 ・新規施設の開館をフックとし情報発信の強化を図る。 ・観光ガイドブックやマップの刷新時に日本遺産ストーリーや構成文化財の掲載を働きかける。 ・県などの他団体発行の印刷物等への掲載を働きかける。 | 協議会・各自治体 |
| ③ | 集客力のあるイベント等での日本遺産PR | <ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム EXPO、日本遺産フェスティバル、日本遺産マルシェなどのPRイベントへ出展しPRを行う。 ・集客力のあるイベント等へ出展し日本遺産PRを行う。 | 協議会・各自治体・民間関係者 |
| ④ | 観光情報の発信強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ファムトリップ、メディアへの広告出稿やウェブ広告等を行い、ストーリーや観光情報の発信を強化する。 | 協議会・各自治体・民間関係者 |

| 年度 | 事業評価指標 | 実績値・目標値 |
|------------|--|-----------|
| 2022 | 協議会公式 HP・SNS の閲覧数 | 44,193 回 |
| 2023 | | 40,746 回 |
| 2024 | | 93,595 回 |
| 2025 | 協議会公式 HP・SNS の閲覧数 | 98,000 回 |
| 2026 | | 102,000 回 |
| 2027 | | 107,000 回 |
| 2028 | | 112,000 回 |
| 2029 | | 117,000 回 |
| 2030 | | 122,000 回 |
| 事業費 | 2025 年度：12,843 千円 2026 年度：12,843 千円 2027 年度：12,843 千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | Web 解析サービスなどの活用により情報伝達の効果を検証し、より効果的な情報発信に取り組む。地元マスコミを巻き込んで積極的に取材してもらう機会を設ける。 | |
| 事業費 | 2028 年度：12,843 千円 2029 年度：12,843 千円 2030 年度：12,843 千円 | |
| 継続に向けた事業設計 | 上記 2027 年度までの方針を基本に、既存のメディアや社会資源を活用して、情報拡散・伝達を図る。 | |